学習内容報告書 フォーマット

学校名	宿毛市立咸陽小学校
授業者	横山　茜　寺田　成偉

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

砂浜清掃プロジェクト　～脇本の浜から宿毛湾の環境を考える～

1-2.　学年

６年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4.　単元の概要

６年生では、これまでの学年のまとめとして「海を守る」をテーマに活動を行った。沿岸に打ち上げられているゴミ問題等を探究していく中で、海は誰かが守ってくれるものではなく海を守るのは自分自身であるということを意識づけてきた。また、浜辺の清掃活動を通して、海に打ち上げられたゴミは自分達の生活と密接に関連していることを学んだ。また、昨年の養殖の学習を生かし漁具についても環境に影響をもたらすものになることに気が付いた。海辺に打ち上げられたごみはマイクロプラスティックになり宿毛湾で生息する生物に大きな影響をもたらすことについても考えた。沖縄の GODAC とオンラインでつなぎ専門家の授業を行うことで深海にあるゴミや世界で起こっているごみ問題や海洋問題について学習を深めた。食物連鎖の頂点に立つ人間にはどのような行動が求められるのかを考える機会となるとともに海を守り継ぐという意識を強く持つことにつながった。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

宿毛湾に打ち上げられるゴミを探究的に調べる活動を通して、身近な自然がおかれている現状や日本の海洋問題に関心を持つとともに、海と人とのつながりを考え、調べたことを整理したり、分類したりし、身近な海がおかれている環境を地域に発信していく力を育成するとともに、郷土（ここ）を守り継いでいこうとするとする態度を養う。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

【知識・技能】宿毛湾の自然環境は自分達の生活と密接に関係していることを理解する。

【思考・判断・表現】◆学習したことをふり返り、考えを整理するとともに自分の生活や地域の未来について考えようとしている。

◆情報収集から得た事実や関係を、比較､分類、整理、分析したり関連づけたりしながら理解し、多様な情報の中にある特徴を見つけている。

1-7.　単元の展開（全 70 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
2	○昨年の学習をもとに身近な海について考える。 ○自分たちの海はきれいなのか話し合う。	○脇本の浜のゴミ拾いから、海の現状に目を向けさせる。 ○写真を撮っておき、映像を使って視覚にうったえるようにする。 ○ゴミを提示する。
5	○課題設定を行う。 「砂浜清掃プロジェクト」 　　～脇本の浜から宿毛湾の環境を考える～ ○これからの活動計画を話し合う。	○地域の海を守るために自分たちにできることはないかに焦点を当て課題を設定させる。 ○無理のない活動計画を立てる。
15	○地域の人と一緒に、脇本の浜の清掃活動を行う。 ○集めたごみを分類する。 ・家庭からの生活ゴミ、漁業関係のゴミ、外国からのゴミ等	○漁業組合長、区長さん、市役所環境課に協力を依頼する。 ○種類ごとに分類させる。 ○この体験から、なぜゴミが流れつくのか考えさせる。
13	○これまでの宿毛湾の水質の変化について学ぶ。 ○海洋ゴミについてＰＣや新聞を使って調べる。 ○世界の海洋ごみの問題やマイクロプラスティックについて考える。 ○GODAC、新宮小学校とオンラインでつなぎ学習を深める。	○グラフを用いて変化を確認する。 ○班ごとに調べるものを決め新聞やＰＣを使って調べさせる。 ○chrome ブックを使い GODAC と連携して進める。
12	○宿毛湾の状況やこれまでの学びを情報発信する方法を考える。 ○動画により配信する。	○動画の脚本や使用する写真など子供たちに議論さしながら思考ツールを使って決めるようにする。 ○動画は３～５分以内でまとめるようにする。
3	○総合的な学習発表会を通じて地域の人や保護者に呼びかける。	○学習をまとめ、家庭から出るゴミを減らすよう協力を呼び掛ける。 ○これまでの海の学習の取り組みを説明させる。

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　70　時間中の　35　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

これまでの清掃活動やゲストティーチャーの話、ICT で調べる活動を通して、海洋ゴミについて集めた報を整理し、プラスチックが環境にどのような影響をもたらすのかを話し合うことができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
１．前時までの活動を想起する。	○脇本の海岸でのゴミ拾いの写真から、どんなごみが多かったのか、なぜ、そのごみが多いのか話し合う。 ○海洋ゴミの種類別円グラフから、なぜ、プラスチックが多いのか話し合う。
２．本時のめあてを確認する。	
３．①生物への影響を考える。 【鳥の誤飲写真】 「プラスチックは生物に影響はあるのかな。」 ・えさと間違えて食べている。 ・親鳥がえさとしてプラスチックを運んでくる。 ・健康に被害が出てくる。 ・健康によくない。 【魚の資料】 「私たちの豊かな海に影響はあるのかな。」 ・鳥と同じように影響がある。 ・成長に影響がある。 ・養殖などに影響があるのではなか。 【海流資料】【影響エリア】 ・海流に影響されている。 ・影響あるエリアが広がっている。 ・漁場に特に影響がありそうだ。	○写真を掲示し、プラスチックの誤飲が生物へ影響し、成長を阻害していること共有し全体で整理していく。 ○プラスチックは大きくて、魚は食べないが、マイクロプラスチックを魚が食べることで、魚介類に影響があることを話し合い、整理する。 ○海流図を通して、プラスチックの影響を話し合う。 ○魚介類に影響のあるエリアの地図を掲示し、持続可能な社会について考える。 ■プラスチックの影響について考え発言している。（発言・ワークシート） ○海洋ゴミのから、豊かな海を守るためにはどうしたらよいかという意欲を高めるようにする。

４．生物の影響についてまとめる。 プラスチックは生物の成長に影響を及ぼしている。 ５．次回への課題ににについて話し合う。 わたしたちの豊かな海を守るためにはどうしたらよいのか。	

3.　今回の活動の自己評価

本年度の６年生は、５年生の時、自分たちが作ったポスターを使った関西のデパートに貼っていただき「宿毛湾のぶり」として販売した。本年度はその売り出しの時に使われたプラスティックトレーはどうなっていくのかから授業を展開した。昨年同様、身近な脇本のごみ拾いからスタートし体験を重視しながら学習を仕組んでいった。また、本年度は chrome ブックを使い、たつの市にある新宮小学校とつないだり、沖縄のゴーダックの研究者とつなぎ授業を行うことで子供たちは海洋の汚染や深海のごみ問題、太平洋と瀬戸内海の比較、海流がごみを運ぶ道になっていること、生活ごみがその大半を占めていることなど多面的に学習することが出来た。海洋について様々な角度から考えられるようになったことは大きな成果である。また、最後は動画で発信するなど子供たちの発想に任せて主体的に取り組みを進めることが出来たことなども成果である。

4.　今後の課題

◆今後も ICT を使い、各地を結びながら学習を進めていけるかが課題である。
◆清掃活動など地域をいかにして巻き込みながら実施していくのか連携がより必要になる。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

2021 10 12